



.....
工 事 タ イ ム ス

— 鐵 道 —

■川俣線全通 鐵道省東京建設事務所所管工事たりし、東北本線松川驛より川俣町に至る延長十二千四百九十二米の鐵道工事は、大正十三年二月松川より起工し今回全工事竣工し、三月一日川俣町に於て盛大なる開通式を舉行せり。

川俣町は福島縣伊達郡に在りて昔より羽二重の重要産地として有名なり、今回の鐵道開通により産業上多大の發展を見るべし。

川俣線工事費は百十一萬餘圓にして、本工事の申にて特に注目すべきは本號巻頭に紹介せる阿武隈川の架橋工事なり。

本建設工事關係職員左の如し。

所長	自大正十三年二月	橋本 敬之	
同	自大正十三年十二月	池田 嘉六	
技師	堀越 清六	佐武 正一	小林 紫朗
	瀧淵 實烈	大木 利彦	三好 新八
	善如寺 秀太郎	稻葉 通彦	高橋 正俊
	新貝 莊三	井上 憲男	
技手	高味 壽一	永田 茂	石岡 南
	松岡 知節		

工事請負者 日本工業合資會社

(川俣線建設概要による)

■丹那トンネル工事其後 丹那トンネルは東口九千尺の個所で温泉餘土が出で水脈の大奔流に出會してゐたが最近現場を調査して歸來した鐵道省橋本工事課長、淺間技師及び八田建設局長等が工事續行について會議を開いた結果、左の如く決定した、それは同トンネル全長と同じく約二萬尺の縦横一間の水ぬきトンネルを現在のトンネルに並行して掘鑿し常時

に水を落すのである、竣成の曉はこれを歩道とする計畫である、しかしその掘鑿の方法も熱海口は普通掘りであるが、三島口はシールド掘りと稱し、鐵の圓筒を土中に入れ水壓扛重機の方で押し進めて一氣に掘るので、これは水のため土質がねん土の軟かい質になつてゐるからである、目下の處では先に掘進ます掘つた處の補強工事をしてゐるが、近く水ぬきトンネルの工事にかゝる、今まで同トンネルは一萬一千尺を掘るのに約一千五百萬圓以上を費してゐるが、更にこの犠牲工事のため二百萬圓の豫算を要するとの事である。

■東京驛前の新設備 東京鐵道局では長途の旅客の疲れをねぎらふべき施設を考慮中であつたが、驛前廣場に地下室を設けることとし、過般岡田美術學校教授に依頼した設計も出來上り、この程警視廳の許可も得たので、いよいよ來月始めから四ヶ月の豫定で工事にとりかゝることになつた、その場所は乗車口前からステーション・ホテル入口間の廣場の地下で廿萬圓を投じて鐵筋コンクリートで建坪二百廿坪の一階建の地下室を造ることになつてゐるが河分地下のこととて防濕のため天井にはアスファルトを張り、また巨大な送風機を使用して常に換氣に努めるさうだ、竣工の曉にはバリーの粹を集めたフランス最新式の男女調髪所數室の外に長途旅客の疲れを癒やすため大浴場をも作ることになつてゐる、因にこの浴場は男子専用との事である。

■東京市の地下鐵道其後 東京電氣局の計畫にかゝる東京地下鐵道の工事は、其の後僅に大藏省にむけ其の財源の起債認可の申請をしてゐる位のもので、其の他の事は渺々しく運んでゐないので、豫定の來年五月の期限までに工事に取りかゝる事が出来るか何

工 事 タ イ ム ス

うか、監督官廳たる鐵道省では、近く好意的の警告を發する事に極つたとの事である。

■**神戸鐵道局の移轉工事** 東は米原、西は糸崎、四國、山陰の全部を管領する我國第二位の大鐵道局が神戸から大阪に移轉の實現は大正十七年と決定し、本年六月から取急ぎ工事に着手することゝなつた、場所は近く出現する大大阪驛の裏手で、總建坪七千坪、工費二百五十萬圓といふ、その設計圖によると

地下室とも四階（五階は屋上設備）鐵筋コンクリートの不等邊六角形になつてゐて、建築物の中央は中庭から屋上まで筒抜けの採光式となつてゐる

■**滿鐵にて請負ふ吉敦鐵道工事** 支那政府交通總長葉恭綽と滿鐵との間に正式契約されたる吉敦鐵道建設請負工事は、着々起工の準備を進め、此程愈々實地測量隊を派して測量に着手せしめた、該鐵道請負金額は一千八百萬圓にして起工後二年間にて竣工の豫定であるが、吉林教化に至る距離四百餘支里で吉林省の腹部に突入し、沿線一帶に於ける林産物は異常に豊富であり、又教化附近よりは大豆、麥其他の雜穀年産百萬石近くに達するので竣工の曉は是等貨物を吸収することゝなりその利益は莫大であると。

— 道 路 橋 梁 —

■**阪神國道工事其後** 大阪神戸間を連絡する動脈線たる阪神國道は近く完成する運びになつた、竣工の曉は實に日本一の理想的大道路となる、起工されたのは大正八年で七ヶ年の繼續事業として經費七百五十萬圓を計上された、大阪市の起點である上福島から新淀川まではすでに出来上つて通行を許可してゐるが、難工事と目されてゐる淀川の大鐵橋も大半工事進み六月には完成する、そして出水期以前に西成大橋をはづすことになつた、また神崎川の鐵橋は十月に、兵庫縣下左門殿川の鐵橋は十二月に開通、十六年三月には全道路が通ぜられる、最初の幅員は十二間であつたが中央に電氣軌道を敷設することに變更されそれがため十五間にひろめられた。道路は中央三間が電車道、それに沿うた兩側二間を高速交通機關用道路として鋪裝を堅固にする、それに沿ふ二間を低速交通機關道路とし兩端一間を人道とする、路面は全道をアスファルトにする、この經費半額は

國庫から支出される、沿線の風景またこの道路にふさはしく、見るもすがすがしい鼠色の平坦路が實現するのも近い中、府はこの道路に限り特に自動車の速力を現在より高速にしても好い意向がある、もし歐米の如く四十マイル位まで認められると、神戸まで三十分で到着することになる由。

■**一日の奉仕道路改善** 廣島縣深安郡中條村から福山市に達する道路は有効幅員九尺で、先年までは郡道として維持管理も稍可であつたが、郡制廢止と共に村道に下管され、爾後各自村で修繕して居るが、此の路線中、中津原村地内、神原伸延長約三百間は、その後日を経るに隨つて自轉車等の通行に困難と危険を感じるに至つたが、同所は其の附近に人家なく唯耕作人の少數が往來するのみで痛痒を感じないためか今日まで更に復舊せんとしたところがないので、道上村在郷軍人五十人が主體となり、中津原村から材料の供給を受け、湯田村荷車所有者と共に一日間熱心に復舊工事を施したので、全く面目を一新したとの事である。

■**横濱の復興工事** 大震災の慘害は東京以上であつた丈に、横濱市の復興は容易ならぬ大事業であるが國で施行の分は幹線街路並に運河改修工事の爲め買収を要する用地はその全部を通じて約九萬六千餘坪に達し、更に之等の用地に存在する建物の延坪数は四萬五千餘坪と概算され、その移轉に或は土地の買収に當局は困難を重ねてゐたが、最近では各民間關係者にも自覺された傾向もみえ漸次順調な解決を遂げ得る様になつて、全工程の四十パーセントは既に完了したとの事である。

■**岡崎市の殿橋架橋** 架け換される岡崎市縣道の殿橋は二十二萬五千圓で一坪四百五十圓宛の豫定で、三月着工し一年二ヶ月位要する豫定である、竣工の上は最新式の設計だから岡崎市の門戸を一變するだらうと謂はれてゐる由。

— 建 築 —

■**古石場アパートメント申込受付** 文化式實用的な古石場アパートは本誌前號に其工事を紹介したが設備構造とも日本式一方に親しんでゐた主婦連中には一寸住願れる迄が厄介であらう、家賃は二十圓

工事タイムス

十八圓、十六圓五十錢であるから、此の新様式の住宅としては實に安いものであるが、果して如何なる人が申込むか、如何に室内の設備を整へるか問題である。

■外苑野球場の其後 明治神宮奉賛會が建設費五十萬圓で神宮外苑に建設中の野球場について、六大學野球聯盟が建設後援會を起して、起工費不足のスタンド、レザーシート費十萬圓を一般寄附で募ることになり全國から寄附金を募るべく奔走したところ實業家藤山雷太氏は賛成して奉賛會理事長阪谷芳郎男と協議して近く藤山氏が全部を引きうけて、實業界の手で莊麗な球場をつくることになった。

■新様式の大警察署 大阪會根崎署の改築工事は二月下旬から同署跡に起工されることになったが、工費三十七萬六千圓、鐵筋コンクリート五階建で本年末竣工の豫定である、改築工事竣工の曉は東洋一の設備を有する警察署として大阪驛頭の一偉觀となるであらう。

—港 灣—

■横濱港第四期工事 横濱港の第四期計畫は二月廿五日内務省内で開催された特別横濱港灣調査會において最後の決定を見るに至つた調査會案によれば、鶴見より本牧に至り、現在の横濱防波堤外に、約二マイルの大防波堤を築かんとするもので、その内側埋め立地（九十四萬七千坪の豫定）に工場地を設け、將來東京の玄関たるのみならず、工業市たる計畫もここに確立するわけである、なほ調査會では左の希望條件を加へた。

一、現在の新港岸壁に平行して大岡川口に更に岸壁

又は棧橋を築造すること。

一、現在横濱港内に舢のたまり及び貯木場を應急設置すること。

—水 力 電 氣—

■朝鮮水電の大工事 近く工事に着手せんとする朝鮮水電株式會社は咸鏡南道咸興附近に約十六萬キロの水力発電所を建設し、大部分空中窒素肥料の製造に使用するものにして發電所は三段にて總落差三千四百尺、水量六百六十個、高百二十尺のアースダムと、高二百五十五尺及び九十尺のコンクリートダム二箇所を設置する近來の大工事である由、（松村種雪氏の私信による）

—水 道—

■江戸川上水組合工事 東京市外小松川、砂町、大島、龜戸、吾嬭、寺島、隅田、千住、南千住、日暮里、三河島、尾久の十二箇町（十二萬五千戸、五十三萬人）を潤はすべき水道の計畫は今の管理者なる大島享藏氏が南葛飾郡長時代の大正八年十二月に前記各町の名譽職や有力家によつて提唱され、直に組合を組織し豫算を計上して十一年四月から工事に着手したが、爾來管

理者其他の勵精、各町民の應援と現場の人々の熱心から明年三月が竣工の期限であつたものが、約八箇月早く来る七月に出來上る事となつた。

此水道の工事費は一千六十五萬圓で、取水塔は南葛飾町の河岸に築かれ名も高い江戸川の水を引入れて、堤の傍らに淨水場（沈澱池、濾過池、淨水池、其他）を設け、此處から各町に延長五十五里二十六町の鐵管で送水されるものである。



工學博士 大熊喜邦氏の指頭畫